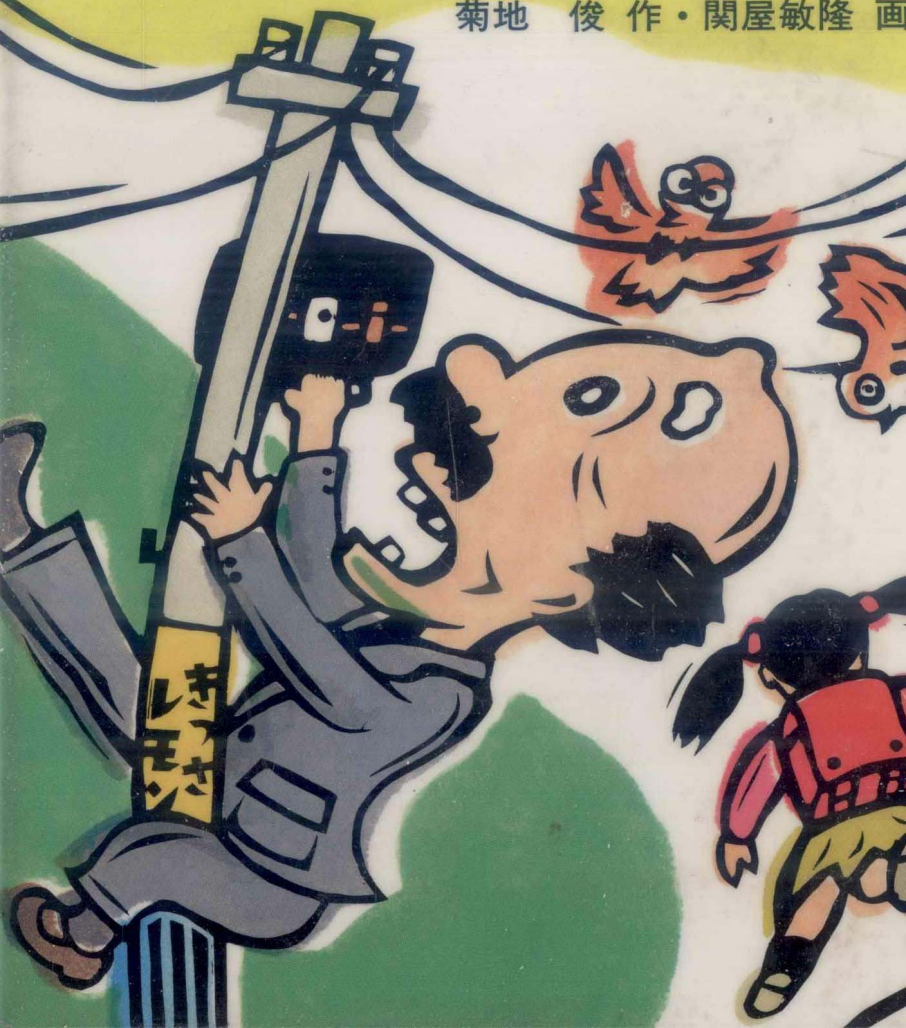


五人が出家家!

菊地 俊 作・関屋敏隆 画



家出人が五人!?

一九八七年七月十五日 初版発行

作 菊地 俊◎

画 関屋敏隆◎

発行 株式会社 童心社

東京都新宿区三栄町22

電話 〇三(三五七)四一八一代

印刷 新興印刷製本株式会社

製本 株式会社 難波製本

©1987 Takashi Kikuchi

Toshitaka Sekiya

348p 182×128mm NDC913

童心社・新創作シリーズ

家出人が五人!?

菊池 俊作・関屋敏隆 画

も
く
じ



12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	はじまりの手紙……………
テレビ騒動……………	詩人と死人……………	青いシマウマ……………	嫁さん よめ にしてやる……………	サツちゃん さつちゃん の計画……………	子守山 こもりやま の秘密……………	家出のはじまり……………	夢 ゆめ はフランスへ……………	カーテンボンチョ……………	よけいなお世話……………	出てこい、伸介 しんすけ ……………	正ちゃん しょうちゃん の災難……………	8
147	134	123	110	96	84	68	56	43	31	24	15	



13	オートバイに西部劇……………	159
14	長屋の国際人……………	177
15	三番目の家出人……………	191
16	だめな男……………	205
17	頭からゆげが……………	217
18	六右衛門の切札……………	230
19	びっくり腰……………	245
20	まけてたまるか……………	258
21	年貢の納めどき……………	274
22	弱いところ……………	299
23	国内旅行にしておけ……………	322
24	最後の体当り……………	337
	おわりの手紙……………	343



家出人が五人!!

はじまりの手紙



〈番長^{ばんちやう}〉なんて、今どきはやらないダサイあだ名をオレにつけたのは、クラスの井上^{いのうえ}伸介^{しんけい}だった。伸介はオレより弱いものだから、くやしきまぎれにからかっているだけなのだ。まったく男らしくないやつだ。

もちろん、オレは五年一組の女の中でかわいいうだとは思っていないし、おしとやかだとも言わない。そして、多少あ^おの男^おたちより動きが早く、腕力^{わんりよく}では負けない自信があることもみとめる。

でもそれは、オレが特別だからじゃない。女の連中が、あまりにもぶりっ子で、気どりで、けいはいはく^{けいはい}な大喰^{おほく}らいのへぶわぶわ人^{へぶわぶわ}だからだめなんだ。まして男の連中^{れんちゆう}ときたら、やるこ^ころがこまかくて、へラへラ笑^{わら}いが得意

で、根性がせこくて、大人の前ではまじめぶってばかりいるへひよひよ人だから、絶望的なのだ。

このへぶわぶわ人」とへひよひよ人」の中で、毎日を送っているオレの身にもなつてくれ。ときたま、がまんしきれずに「なんだ、てめえ、ばかやろう！」とオレが言つたとしても、女のくせに乱暴な言葉を使うとか、中学に入ったら不良になるぞとか、つまらない忠告はやめにして、あつちの連中のほうをどうにかしてほしいものだ。

さて、そのへひよひよ人」の重要なメンバーの一人である伸介が、こともあろうにラブ LETTER を書いてよこしたのだ。だれにつて？ オレにだよ！ そしてそれを持ってきたのが、あたりまえの話だけど郵便局の配達員で、この若僧がまたしやくにさわるへひよひよ人」だった。

「あて名書きがへ宿六長屋」つてなっているんだよ。ここは山六莊だろう。でも所番地はここになつているから……困つたなあ」

「ここは宿六長屋じゃないけど、いいよ、ちゃんと斉藤静つてオレの名前が書いてあるんだから、もらつておくよ」

なにをかくそう、オレは静つていう名前なんだ。ところがこの若僧、今まで何度も配達に

来て知っているくせに、手紙を渡さないで、玄関げんかんの上がり口すわに座りこみ、

「へえ、お姉ちゃんは静しずまっているの。へえ、わからないものだねえ」

「なんだよ、人の顔をじろじろ見て、なにが言いいたいのか」

「ははは、いいや、いいんだけどね。……しかし宿六長屋かあ。宿六ってどういう意味か、

お姉ちゃんは知っているかい」

「知らないよ。だけど、近所の人たちがここを宿六長屋と言いっているのは知しってるよ。だから手紙をおいて、もう帰かえれよ」

アパートの大家おおやが山下六右衛門やましたろくえもんという、ちょんまげがのっかりそうな古い名前だから、ま
ずかつたんだ。六右衛門、この名がひどく気に入ってるらしくて、山下の山と六右衛門の六
をとって、アパートを山六荘と名づけてしまった。それがなんで宿六長屋になったか。それ
はこの郵便局のおせっかいの若僧わかしづの話でわかるだろう。

「宿やどというのは住家すみかって意味もあつてさ、つまり自分の家のことだね。そのろくでなしが、
すなわちへ宿六へてわけらしい。あまりパツとしない父ちゃんのことかな。仕事もどっちか
というと下手へたで、なまけがちで、お金にもどっちかという縁えんがなくて、へへへ、母ちゃん
にも頭が上あがらないほうで……。そういうお父ちゃんたちが、なぜかこの山六荘に集あまつて

しまったわけだ」

オレはこいつを早く帰したいから、手紙を取ろうと手をのばすんだが、そのたびに若僧め、手紙をひっこめてニヤニヤ笑っている。

「長屋っていうのは、あの江戸時代の貧乏長屋のことだろう。ここの建物はまったくひでえもんなあ。長屋の二階建てで感じて、外から見るとちよつとかたむいているものなあ」

オレはがまんにがまんを重ねていたんだ。しかし最後の手段に出るしかなかった。言うま
いと思つていた例の言葉を、思いきつてぶつつけながら、ついでに体のほうもがっちり固め
て、若僧のひよろひよろ腰に体当たりしてやった。

「なんだてめえ、このばかやろう！」

ミスターポストマンは、ぐえつという変な声を出して一発で吹つとんだ。ちゃんと閉めて
なかったドアを、左側のほつぺたで押し開けて、まるでサッカーのゴールキーパーのように
横つとびに外に飛びでて、そのままアパートの庭先に寝そべった。

手紙は玄関に落ちていた。オレはやつのほうを見もせずドアを閉めて、手紙の封を切つ
た。ラブレターって言つたけど、封のところにハート型のシールが貼つてあつたり、便せん
のはしに相合傘の絵や、ハートに矢が刺さっているへたくそで下品な絵が描いてあるだけの、



ふざけた手紙だった。

ぜんりやく

こいしい、こいしい、女番長の静さま。この手紙、ぶじに着いたでしょうか。着いたら、やっぱり静さまのおやしきは宿六長屋でよろしかったというわけですね。はひひひひひひ。

さて、静さまには番長ばんちょうというすばらしいあだ名があるのに、わがサッカー部では別の名がいいともめております。つまり、イノブタにしようという意見が強いのです。それといえますのも、五年生でサッカー部に入っている女の子は、静さまお一人。コーチの南條先生なんじょうも困こまられて、マネージャーとしてやってもらっているわけですが、静さまが部の会費を集めるとき、みんなに「部費、ブヒ」と、つまり「〇〇君、ブヒ」「××君、ブヒ、ブヒ」と言うものですから、みなさん、大騒ぎでございます。静さまも「ブヒ」をやめるか、いつそサッカー部をやめるかいたしませんと、イノブタは決定的。ぼくがせっかくつけた番長の名が泣いてしまいます。ほかにもいろんなあだ名が出ています。静さまのニキビやそばかすが多いのに目をつけて「バラマキゴマ」、大きな鼻にちなんで「ア

グラバナ」、まゆ毛が少々太いからって「ゲジマユ」、口びるがちよつと厚いっていうんで「二枚ダラコ」……。

オレはここまできて手紙を破っちまった。ゆるさん、ゆるさん。伸介の野郎、殺してやる。チンチンを引っこぬいて、校庭にばらまいてやる！

1 正ちゃんしちやんの災難さいなん



春なも半ばを過ぎたので、夜、外へ出るのも寒くなくて助かる。オレは夕食後、ぷらつと宿六長屋やどろくながやを散歩するのが好きで、ここのとこる毎日そうしている。ここには一階に六世帯せたい、二階に六世帯、合計十二の家族が住んでいる。その一部屋一部屋を、入口からまたは台所の窓まどから、あるいは反対側にまわって庭の窓から中のようなすをうかがうのが、オレの楽しみになってるわけだ。

のぞくわけじゃない。その辺を通るだけで、中から聞こえてくるのだからしょうがない。おかげで宿六長屋の住人で、オレの知らない人はいない。

その日の晩も、父ちゃんが仕事から帰って来るまでの間、外に出ていた。あした学校で、